

患者情報ライブラリーの役割 ～ 5年間を顧みて～

所属部署：管理部医事課・総合情報センター

○脇田恵美子

荒井 昭子 青山 賢二 久田 睦美

【はじめに】

患者情報ライブラリーは患者さん・ご家族・市民の皆様がご自分の体や病気を理解し、治療や検査の理解を深めていただくために、患者図書館として協力・支援し6年目を迎えている。全国的な院内患者図書館の歴史は、昭和49年、日本病院協会が「教育・文化・医療情報サービスをする患者図書館を全国の病院に設置する運動」として位置づけ、一般書・娯楽書を中心に発展してきた。医学書を含めた患者図書館は、平成14年、静岡がんセンターに「あすなる図書館」が誕生しその後全国に広がった。

当院は昭和62年に一般図書の「愛の図書室」ができ、平成19年新外来棟の開設時に、患者サービス向上の位置づけのもとに医療図書中心の当ライブラリーが設置された。年々設備や図書を増やし、現在は日常の情報提供と相談への対応、さらに隔月にセミナーを実施している。今回は、患者情報ライブラリーの具体的な役割内容を5年間まとめて紹介し考察していく。

【結果】

- 1) 役割・内容：医療情報提供とセミナー
- 2) 設備内容（がん情報コーナーを含む）：医療図書900冊・パンフレット650種類・インターネット3台・DVDビデオ200枚
- 3) 5年間の利用者数:30,998人（6,200人/年）
- 4) 5年間の利用件数:31,925件（6,385件/年）
- 5) セミナーの参加者数:855人（1～26回）

【まとめ】

患者情報ライブラリーの役割はインフォームド・コンセント後の補完や医療関係の情報提供、病気を抱えた生活相談、セミナーによる学習である。設備・内容は徐々に充実し役割は院内に定着しつつある。しかし、現在の課題は、1日20～30名の利用状況では1日1700人の外来患者

数、808床の入院患者数から見るとまだまだ少ないと考える。病院地下という立地条件で多くの方の眼にとまりにくい状況であり、情報発信が必要だと考える。患者さんに「一番悩んでいたときにこのライブラリーの存在を知っておればこんなにまで苦しまずに済んだのに・・・」この言葉はライブラリーの存在アピールが病院としてさらに必要な時期に来ていることの証しである。

